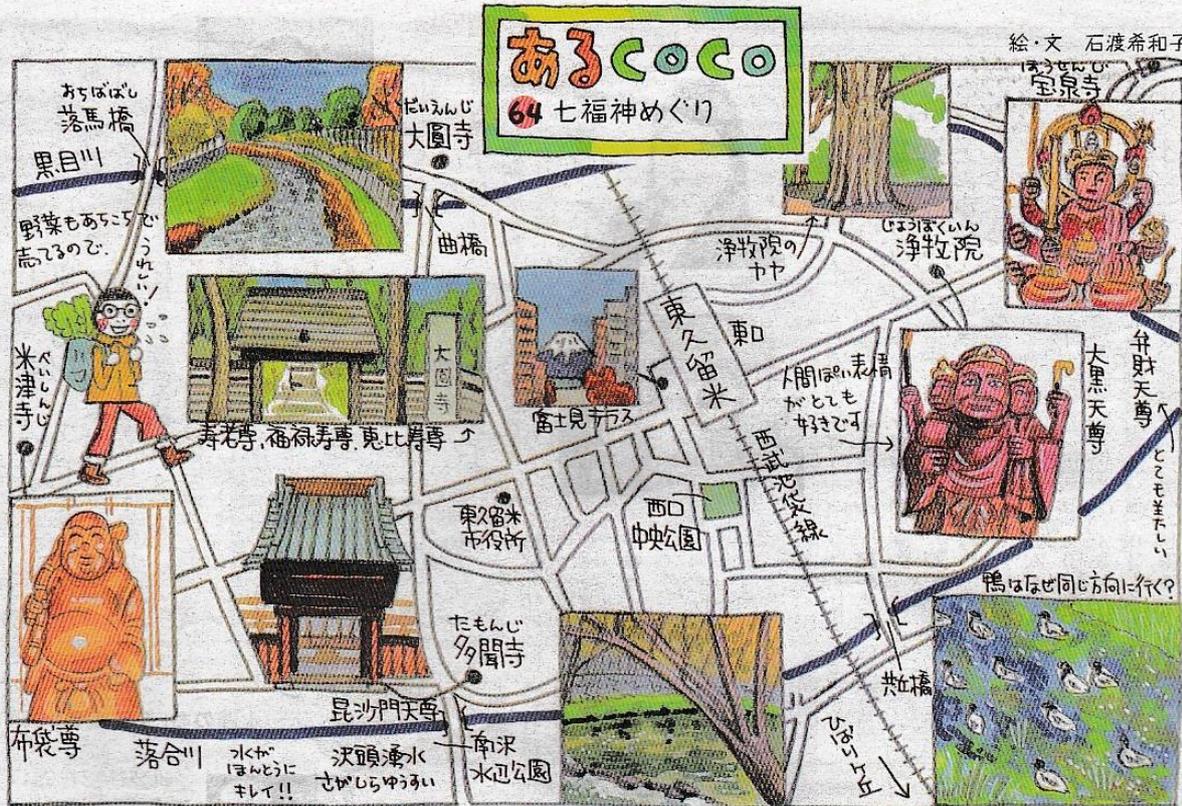


武蔵野倶楽部の新春恒例行事の七福神巡り。令和2年は西武池袋線沿線の東久留米を選び、1月11日(土)に開催します(詳しくは支部日より12月号をご参照ください。)

朝日新聞の多摩地域新聞 asacoco に紹介記事が掲載されましたのでご覧ください。

お申し込みはB O B会事務局または担当小川(☎090-2485-9469)までお早めどうぞ。



絵・文 石渡希和子

東久留米市 水辺の景色も楽しんで 福が来る七福神めぐり

歩きやすさで人気あり

新年1月11日(土)に第16回目が開催される「東久留米七福神めぐり」。5つの寺をめぐる、七福神がお参りできる。年々人気を集めており、第15回目は

ときおり小雨の降る寒い一日にもかかわらず、2200人の参加があったそうだ。リピーターが多いのも特長で、アンケートでは「また歩きたい」という感想が多いとのこと。歩いてみて、その人気も納得できた。駅を中心に東西をぐるぐる8キロほどの歩きやすい道で、健脚なら2時間、休み休み歩いても3時間くらいあれば一めぐりできる。

湧水の清らかさと共に
歩きやすさに加えて、黒目川と落合川という、水のきれいなふたつの川それぞれ水辺を通り、町の中とは思えない自然も満喫できるのが魅力だ。北側を流れる黒目川は、小平霊園内にある「さいかち窪」の湧水を源流としており、南側の落合川は、「平成の名水百選」に東京都で唯一選ばれた南沢湧水群の湧水が流れ込む。どちらもとて

個性豊かな七福神

11日の七福神めぐりは、西口中央公園で受付(9時半〜11時半)をして、スタンプラリーの台紙をもらってスタートする(参加費100円)。もちろん、このイベントの日以外でも、お寺をめぐる神様にお参りすることはできる。ただし、多聞寺の毘沙門天尊だけは、一般公開は11日のみとのことだ。この多聞寺は、明治18年開校の公立小学校「共立学校跡」として市の指定文化財になっており、校舎の前に2本あったというヒバの木の本が今もある。

お参りできた神様は、みな気品がありながら個性的な表情で、手に持ったさまざまな道具の精密な作りも興味深かった。周辺へのバス便も多く、東久留米駅もコースの中にある。お天気が良ければ、東久留米駅の富士見テラスから富士山を眺めて、新年の福を祈念することもぜひお忘れなく。